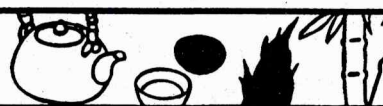




読売歌壇



小池 光選

ニューヨークで働くと言ふ板前は寅さん全巻も
ちて発ちたり 東京都 浅倉 修

【評】ニューヨークで一旗上げんとする若き
板前さん。「フーテンの寅さん」をきつしり
靴に詰めて。これさえあれば日本のすべて
が分かるのである。応援したい。

放浪の絵描きと聞きいし祖父の絵にはじめて遭
いたり鹿教湯の宿に 狭山市 古谷真利子

【評】祖父は放浪の画家と聞いていたが、そ
の絵を見たことがなかった。温泉宿のロビー
のようなところで、はじめてその作品に出会
う。なんと偶然だろう。万感迫る。

中学の手紙の書き方教科書に母上様と例文あり
き 福山市 宇田 雅子

【評】父上、母上という日本語が使われなく
なつて久しい。昔は手紙にもこう書いた。お
のづから書く文章もあらたまる。

病室を出る背で聞いた「ありがと」それが最
後の母の肉声 横浜市 桃井 恒和

一クラス二十二名の一年生八十二人世代が見守
る 京都市 根来美知代

きつぷ切る車掌の鞆ゆらしつつ記憶のバスが砂
利道を行く 鹿児島市 白沢 友美

公民館のレクダンス今日は「春よ来い」外は風
花われらは踊る 西条市 山本美知子

息止めて梅の蕾が待つてゐる指令出すのは幹か
根つこか 岐阜市 後藤 進

映画みて回転寿司たべ冬晴れの町を歩けり年金
支給日 御坊市 竹内ユキ子

畔に食みし味噌おにぎりを思ひ出つ「ひるのい
こい」の曲流れれば 仙台市 小野寺寿子

栗木 京子選

終活を始めて味わう幸せは良き友と出会い紡い
だ記憶 下野市 鹿嶋 良子

【評】終活と聞くと寂しい感じがあるが、こ
の歌は終活によって友との幸せな記憶がよみ
がえつたのだ。人生の肯定につながる記憶は
作者の力になる。「紡いだ」が印象深い。

古戸棚片付け居れば嫁われを「追ひ出せ」とふ
小姑の手紙出てきぬ 安中市 中山 恵子

【評】衝撃的な手紙を見つけてしまった。義
父母あるいは夫に宛てた手紙だろうか。許せ
ない内容である。「嫁」「小姑」という語
から旧弊な家族制度の軋みが伝わってくる。

白梅の道を通つて幾冊の本をわずかな貨幣に替
える 千葉市 佐藤 綾子

【評】読み終えた本を売りに行ったのであろ
う。道は昔ながらの古書店につながつてい
る気がする。本との別れが越深く詠まれた歌。

おひたしにと求めしなばなの花咲きぬ春を三本
印伝焼に挿す 神奈川県 吉川 優

UKの入国手続はやっかいだAに英国を愛す
る私の気持ちは汲みとれず 東京都 青山 繁

ひたすらに日本語つかいし留学生別れのサイン
はモンゴルの文字 江別市 海老沢 基

芹摘みに畦道下り行きし頃祖母は何度目の春だ
つたらう 新座市 関原 陽子

春さらばまづ見にゆかん亡き父が三年過ぎし
ホームの桜を 市川市 一之瀬 朗

水仙の花咲く土手で友に遇ふ寝たきりは嫌と意
見の一致 糸島市 原田サツ子

もう朝だ原石のまま寝てたから今日もゴソゴソ
磨くところから 札幌市 橘 晃弘

俵 万智選

仕事場で俺が演じている俺がさらに演じる電話
応対 大野城市 亀田 巧

【評】「俺」と「演じる」の繰り返しが、マ
トリョーシカのような効果を上げている。本
当の俺の外側に仕事場の俺。仕事場の俺の外
側にさらに対外的俺。何重もの俺の在り
様は、現代社会を象徴する。

冷蔵庫の中にまだ未来が残つてるけど今日はひ
とまず昨日を煮込む 川崎市 浅野 愛佳

【評】調理されていない食材を「未来」、料
理になったものは「昨日」という捉え方が斬
新だ。過去だって煮込めば、いい味を出す。

シートから余白を離し端つこのあけのような切
手を使う 高島市 宮園佳代美

【評】大きい切手シートを、五十首表に見立
てたところが面白い。わ行にいくまでに、ま
だまだ手紙が出せそう。

かんたんに頼れることを100円の杖に教わる
こんぴら参り 高島市 くらたか湖春

ラディッシュが父だとしたら似ているがピリッ
としない僕は赤かぶ 富士見市 松本 尚樹

安ニット脱ぐときパチパチしなくなりぼくにも
春が来たことを知る 上尾市 関根 裕治

寝ぼけて詩集に充電器を挿した言葉はマジで光
つたりする 熊本市 夏風かをる

「粉砂糖まぶしたようなパンジー」と表現でき
るおだやかな朝 京都市 五十嵐幸助

カーテンを閉めて座れば雨の日も青空になる証
明写真 横濱市 山田 知明

質状じまい出会ったことも遠ざかり此処で手を
振る黙ったままで 守谷市 羽鳥 明美

黒瀬 珂瀾選

おほよそが夫を亡くせる老女らのへあつたかサ
ロンVそのひとりわれ 北九州市 田浦チサ子

【評】誰でも集える社会福祉のサロンだが、
気づけば参加者の大方が寡婦であった。こう
して人は悲しみを分かちあつて生きていくの
でしょう。「あつたか」な心で繋がりながら
老い母の酸素飽和度測るべく鍛錬き手を優しく
撫でる 狭山市 若松 吉弘

【評】老母の体調を注意深く見守る子。「酸
素飽和度」という硬い医学用語の向うに、切
実で温かい親子の情愛がひそんだ一首です。

寝る前になると元気になる吾子とはしやきて妻
にまた叱らるる 広島市 熊谷 純

【評】超わかる！ 僕もそうでした。どうし
て幼児は寝る前になるとやけに元気になるの
か。そして親はどうしてついつい釣られては
しゃいでしまうのか。子育ての謎です。

唯一の戦争被爆国と言ひ戦争使用国に従う
京都市 寺西 和史

久々におかわりしたと笑つてたけう君を待つ地
域食堂 群馬県 金子 歩美

亡き友の眠るあたりを通りぬバスはこの春廃
止となりぬ 久喜市 深沢ふさ江

びしょ濡れの光を受けるそこらじゅうわたしを
うつすものばかりいて 岡山市 松井 度

諦めてニトロに委ねたる命またありがたくけふ
も朝来る 鹿児島市 松本 清展

柔らかな日差し優しく吾を抱いて劣等感の塊溶
かせ 茂原市 今井 ゆき

忙しさのなか向けられる微笑みよ源泉分離課税
の後の 大和郡山市 大津 穂波